

『向島の豊かな自然と生きものたち』

第30回 タガメ・ミズカマキリ・タイコウチ

昆虫を大きなグループに分けて、同じグループごとに見比べてみると、生活の場所や姿・形が似ていることに気づきます。反対に、姿かたちが似ているから同じグループかな!?と感じることもあります。

もっと詳しく調べるいくつかのポイントもありますが…ちょっとむずかしくなりそうなので今回はやめときます。

「カメムシ」って、誰でも知っている名前、イヤな感じのする虫ですね。つかまえると臭いにおいを出して身を守るんだけど、自然界では効き目があるんですかね??

タガメ・ミズカマキリ・タイコウチ・アメンボ・コオイムシもカメムシと同じグループに分けられ、「水生カメムシグループ」と呼んだりします。

成虫も幼虫も水中生活(アメンボは水面生活)をしながら、空気が必要だから水中から管を出して呼吸し、飛ぶこともできます。

食べるものは動物性です。針のような口(口吻)で昆虫を刺し、体液を吸って大きくなります。近い仲間に「セミ」がいます。セミにも針のような口があります。

水生昆虫を探して里山に出かけてみるのですが、なかなか見つかりません。どこかの水辺で暮らしているのでしょうか??

尾道周辺には「ミズカマキリ」はいますが「タイコウチ」は見ることができないし、「タガメ」は絶滅危惧種になっています。

「タガメ」を初めて見たのはすいぶん前です。兵庫県山間部まで出かけて、田んぼの中に幼虫の脱皮ガラを見つけた時は、ものすごく緊張したのを覚えています。

田植えが終わって1カ月くらいの頃だったでしょうか。田んぼのイネの根元にタガメの幼虫を発見!!! そっと網ですくって手元に引き寄せるまで、胸がバクバクしました。

どうかいつまでも、その水辺や良い環境が続きますように! と願っています。